

全国知事会 第37回新型コロナウイルス緊急対策本部会議
蒲島熊本県知事コメント

まず、本県の感染状況ですが、本日も過去最多となる2,333名の新規感染者が確認されました。直近1週間の人口10万人あたりの感染者数は約640名で、全国の中でも多い状況です。

昨日時点の病床使用率は41.1%ですが、重症者は少なく、今のところ医療提供体制はひっ迫していません。しかしながら、1週間前と比較して病床使用率が13ポイント以上増加しており、油断できない状況です。

現在は、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図っていますが、今後も病床使用率が上昇し、医療提供体制がひっ迫する可能性が高くなれば、何らかの対策を講じることも検討する必要があります。

その際には、現在主流のオミクロン株に対する効果的な対策を講じなければなりません。

この「効果的な対策」を示すよう全国知事会から国へ提言していますが、未だに具体的なものは示されておられません。

今回の感染拡大への対応を国民に示すためにも、「具体的かつ多様な対策」を、国に早急に示していただきたいと思います。

そして、これに関して私から1点だけ強調してお願いしたいことがあります。それは、実施する対策を選択する際の「基本的な考え方」もセットで示していただきたいということです。

対策を選択する際の目安がなければ、全国で対応がバラバラになり、国民が混乱する可能性があります。

「こういった感染状況になったら、こういった対策を実施すべき」という考え方も、エビデンスに基づいて示していただきたいと思います。

もう1点、ワクチンに関して申し上げます。

本県でも3回目接種の接種率が伸び悩んでいます。

要因は様々ですが、副反応に対する不安から3回目接種を避けている方も多いと考えます。

このような中、現在はノババックス社の組換えタンパクワクチンも接種が可能です。

このワクチンは、マスコミは副反応が少ないと報道していますが、国はこの点を国民へ明快に説明していません。

今回の提言書にもある「ノババックス社ワクチンの有効性や副反応の状況など、接種を検討する際に必要となる情報発信を行うこと」について、国に強く訴えていただきたいと思います。

また、熊本県内企業のKMバイオロジクスが、国民に馴染みのある不活化ワクチンを開発中であり、9月中の承認申請を目指しています。

ワクチンの選択肢を増やすためにも、申請後に、国には可能な限り早期の薬事承認をお願いしたいと思います。

以上